

2026 年第 14 週の報告です。

今週も山城北の咽頭結膜熱・南丹の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベルは継続中です。また、乙訓と南丹では水痘の定点当り報告数が警報レベルに増加しました。

全数把握対象疾患は、結核が 5 件、A 型肝炎・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・侵襲性肺炎球菌感染症・梅毒・百日咳がそれぞれ 1 件報告されました。

さて、数か月ぶりに A 型肝炎の報告があったので、A 型肝炎についてコメントします。

A 型肝炎は、A 型肝炎ウイルス（HAV）の感染による急性肝炎です。主な感染経路は、HAV を含む糞便等に汚染された水や食物の摂取による経口（糞口）感染です。また、生又は加熱不十分の魚介類の喫食や性的接触により感染することもあります。世界的には上下水道の整備が不十分な国で流行することが多い疾患ですが、衛生状態の良い日本国内においても一定数の発生があります。京都府内では、年間数件～多い年で 10 数件の発生があります。

潜伏期間は平均 28 日（15～50 日）であり、典型的な経過としては、嘔気や食欲不振、発熱、全身倦怠感、腹痛等で始まり、数日～1 週間以内に黄疸や褐色尿を呈し、1～2 か月で自然回復します。A 型肝炎に対する特異的な治療法はなく、症状や病態に応じた対症療法が行われます。慢性化することはないものの、1%未満の低い頻度になりますが、重症化（劇症化）することが知られています。

HAV は、感染後 1 週間～発症後数カ月まで糞便中に排出されることがあり、その間の家庭内感染には注意が必要です。感染予防として手洗い等の標準予防策を行いますが、HAV はアルコール消毒に抵抗性があり、留意が必要です。また、飲食物中の HAV は、十分な加熱（85℃で 1 分間以上）によって不活化することが出来ます。他に、流行地域へ渡航する予定のある者や、患者と居住空間を同一としている家族に対してワクチン接種を行うこともあります（保険適用外）。